

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092700063
法人名	社会福祉法人なごみ福祉会
事業所名	なごみ園グループホーム
所在地	福岡県豊前市大字三毛門914番地1
自己評価作成日	平成27年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成7年宅老所開設を原点とし「普通の暮らし」を大切に、利用して下さる方本位の介護の実現を目指し、職員の資質の向上に努めている。また、地域との関わりや馴染みの関係を大事にし暮らしをいけるよう支援させていただいています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>伝統行事である三毛門神楽や新たなイベントであるカボウインパーティ等、豊かな地域性の中で、介護保険法施行以前より宅老所としての活動を開始し、歴史を重ねている事業所である。運営推進会議には地域からの参加も多く、小学校や公民館が隣接する地の利を生かし、日常的な地域とのつながりを大切に、併設する事業所と共に地域拠点としての役割を担っている。職員ハンドブックを用いて理念や方針、基本姿勢を共有し、外部講師を招いて継続的に認知症ケアに関する研修を実施する等、質の高いサービス提供に向けた積極的な取り組みも確認できる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年10月20日	評価結果確定日	平成28年3月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ハンドブック等で共有し実践に努めている。	職員ハンドブックを作成し、理念や基本方針、介護の基本姿勢等を具体的にひもときながら、目指すべき方向性を共有し、実践に結び付けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や小学校、保育園等の交流会に利用者、職員とも参加し継続的に交流している。また、中学生、高校生の福祉体験実習も受け入れている。	隣接する小学校や近隣の保育園とは、芋ほりとともに行う等、継続的な交流機会がある。また、三毛門かぼちゃで知られる当地区では、ハロウィン時期に合わせ、隣接する小学校にて「カボウィンパーティ」が開催される。事業所も入居者の方々の協力を得ながらカレーの模擬店等にて協力している。夏祭りには、地域や家族、高校生のボランティアの参加、協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事などへの参加や、運営推進会議等で報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催。行政、民生委員、公民館長等地域の代表者、利用者家族などに参加して頂きサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、地域代表、民生児童委員、婦人の会代表、公民館長、人権擁護委員、ボランティア、行政、地域包括支援センター等、多彩なメンバー構成にて開催されている。情報共有や意見交換を通じて、サービスの向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、市担当者及び地域包括支援センター職員が参加し情報や助言をもらいサービス向上に努めている。	運営推進会議には、行政及び地域包括支援センター職員の出席を得ており、日常の取り組みを伝え、開かれた事業運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実践し理解できるように取り組んでいる。日中玄関の施錠をせず見守るケアは変わらず実践している。	外部より講師を招き、研修を実施している。言葉による抑制についても意識を高め、また医師との連携による本人本位の服薬調整にも努めている。日中玄関の施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修を実施している。日常的にも言葉使いや態度をはじめ利用者に対する身体的、精神的苦痛を与えていないか注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について内部研修において学んでいる。	権利擁護に関する制度について、外部研修に複数の職員が参加し、内部での伝達を図っている。現在、制度を活用している方もおり、必要時には情報提供を行っている。市民後見人口座を受講している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に園内見学や、体験入居などにも対応し、契約時には説明し同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。日常的な生活の中で意見や要望を聞き実行に努めている。また、家族面会時等にも意見や要望を聞いている。	年2回の家族会開催や運営推進会議等を通じて、家族の意見や要望の収集に努めている。以前は毎月家族会を開催していた経緯もあり、家族と共に認知症ケアの質の向上を目指している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部門会議や主任会議などで意見を聞き検討反映に努めている。	グループホームとしての部門会議において職員意見の収集や情報共有を図り、法人全体の会議にて検討され、フィードバックに努めている。備品の整備や新たな企画の導入等、実際に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定に基づいた給与表を、初任給与格付基準表、給与年数換算表に照らし実績に応じた給与の支給に努めている。また、向上心に向けた講座、趣味への講座への参加がし易いよう勤務表を作っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、公平、平等な視点で行っている。また、事業所内の職員にも得意分野のレクをお願いしたり、趣味の講座に参加できるよう勤務配慮している。	職員採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。現在、、定年後の再雇用制度等も活用しながら、10代から70代まで、幅広い年代の職員が在籍している。外部研修参加に向けたサポート体制の整備や、生け花やフラダンス等、個々のプライベートな活動の継続にも配慮し、働きやすい環境づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月2度同じ内容で開いている認知症学習会)を繰り返す中で、人権教育は育まれている。また、人権講座(市主催)にも参加している。	外部より講師を招き、認知症ケアや人権、メンタルヘルスについて学ぶ機会を持ち、また、市主催の研修や啓発記事をもとに意識を高める等、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2度同じ内容等で開いている。ほぼ全職員が参加している。初任者介護研修を未講習で入職した職員に対しては、研修扱いや金銭的補助も全額ではないが行なっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間の研修や交流、また、オレンジカフェ、徘徊見守りの実習参加、他職種連携研修会などの参加、グループホーム協議会研修の参加等を通じてサービスの向上の取り組みを行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報を職員で共有し、可能であれば園内見学や泊まりの体験等で不安の解消に努めている。対話を重視し本人の要望等注意して聞きとり、安心できる関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見や要望を聞き、話し合いながら関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に際しての理由をよく聞き、必要としている支援を見極めるよう努め、柔軟に対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者が出来ることは、出来るだけ行なって頂き、職員と共に行うことで関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、報告、相談を行い家族と共に本人を支えて行く関係を大切にしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの病院受診や、以前小規模を利用されていた利用者については、小規模にも行き来し関係の継続に努めている。	地域の伝統行事である三毛門神楽や子供神楽にふれる機会がある。家族との連携により、自宅の様子を見に出かけたり、自身の作品が展示される場所を訪ねる等、馴染みの関係性の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に常に注意し対応させていただいている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠された方には、節目節目にお参りに行かせて頂いたり、入院により退居された方に対してもお見舞いに伺ったりしている。また、家族の方より季節の物を持って来て頂いたり関係は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から本人の希望や思いが把握できるよう努めている。家族の方とも連絡をとり、話し合いながら本人を支えるよう支援している。	入居者個別の主観的な情報(言葉等)を記録に残す等、詳細な日々の記録が確認できる。日常の関わりの中で思いや意向の把握に努め、困難な場合には家族の意向や情報を含め、本人本位の検討に努めている。記録の視点や内容、重要性について、整理していくことが期待される。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、記録等で共有するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個別記録をつけ申し送り現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にて話し合い検討している。	業務日誌や個人記録には、介護計画に基づく実践記録やケア目標を個別に記入する欄を設け、実践への反映に活かせるよう努めている。各担当者や計画作成担当者が役割を分担し、毎月のモニタリング、カンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性について確認している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の状態を明確に記入し、申し送りを詳細に行い職員間で共有し活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて本人、家族と相談し取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭への作品の出品や保育園、中学校等交流を図り地域での生活を感じて頂いている。また、併設の小規模での習字教室等に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される主治医との関係を大切に、受診介助や往診時は状態報告、相談等行い主治医との関係を築いている。	入居者個別のこれまでのかかりつけ医の継続を支援している。また、協力医による訪問診療時も含め、情報共有に努めている。看護記録が丁寧に残され、看護部門会議にて個別のカンファレンスを実施し、日々の健康管理や主治医との情報共有に活かされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送り等に看護師も参加し、状態を看護記録へ記入し、状態観察行い個々の主治医との連携も図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族と共に病院関係者の話を聞いたり、家族と電話等で状況の把握、相談に努め、看護師、職員等面会にも行き関係づくりをおこなっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等と話し合い意向を確認している。「治療指示書」を作り方針の共有を図り、状況変化に応じてその都度話し合いを行っている。	入居時より、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明を行い、意向を確認している。外部講師によるターミナルケアや看取りに関する研修も実施されている。状態の変化に伴い、その都度の意向確認と話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	部門会議等で、確認し対応等の手順等を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で避難訓練を定期的に行い避難方法を訓練している。また、消防署や地域の方の参加による訓練を実施している。	併設事業所との合同にて、時間帯や出火場所等を変更しながら、避難訓練を実施している。消防署や地域住民との連携についても、予定されている。訓練後には反省会を実施し、課題を明確にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの思いや願いを尊重し声掛け、対応を行うよう心掛けている。	職員ハンドブックの中で、人権と人格、プライバシー、自己決定、羞恥心等を尊重すること、また、援助のチェックポイントとして細やかにひもときながら、職員の意識の向上と実践に結び付けるよう努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし本人の思いや希望の確認を行なっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意志やペースを大切にし、1日の生活が職員主体とならないように、寄り添うケアを実施している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り自分で洋服を選んで頂いたり、以前の習慣や本人の希望を大切にし、本人らしい身だしなみができるよう配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の配膳や後片付け等利用者に声をかけ一緒に行っている。また、月に一度食事作りの日を決め、献立を利用者とも話し合い買い物から、準備、調理とも参加して頂いている。不定期だがおやつ作り等も職員とも行なっている。	通常は法人厨房より食事は提供され、職員もともに食卓を囲んでいる。月に1回、手作りの日を設け、献立や買い物、野菜の皮むき等に力を発揮してもらいながら、食のプロセスを楽しむ機会がある。また、月に1回、外食に出かけ、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を個別記録、看護記録に書きチェックしている。状態に合わせ食事形態やメニューの変更等厨房へ伝えて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行ない自立の方は見守り、必要時介助を行なっている。また、介助が必要な方は状態に合わせたケアを行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を個人記録へ記入し把握、サインを見逃さないよう努めている。状態にあった用品について話し合い変更し個別の対応に努めている。	排泄状況を確認し、個別のパターンや間隔、サインの把握に努めながら、トイレでの排泄を支援している。排泄動作の確認や下肢機能維持に向けた働きかけを行い、リハパンから布パンツへの移行も含め、自立に向けた支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を個別記録に記入し、排便チェックを行ない、必要時は看護師と相談し取り組んでいる。また、ヨーグルトや乳製品等の摂取して頂き対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や個別の希望に全て応えられてはいない。週3回本人の希望を聞き入浴できるよう対応している。	ほぼ毎日入浴準備を行い、週に3回程度は入浴できるよう、希望や体調、状況等に応じて柔軟な対応に努めている。拒否される場合には、無理強いとならないよう個別の配慮に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休めるよう支援行なっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別記録に処方箋をファイルし職員が内容を確認できるようしている。また、処方変更時は申し送り等で職員間で把握し、状態観察に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が得意な方には、行事等で歌っていただいたり、料理が好きな方には、おやつや手作りの日に準備や調理で得意な事を生かして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はテラスへ出て、おやつを食べたり、園庭を散歩したりして支援している。本人が欲しい物がある時は、買い物で外出の機会を設けたり、季節を味わって頂くためドライブの計画を立てている。	散歩や園庭での日光浴、買い物等、戸外に出かけられるよう支援している。また、季節行事の企画や地域行事への参加等、外出の機会の拡大に向けて努力している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ほとんどの利用者はお金の管理が出来ず園にて管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話して頂いたり、電話での近況報告時は、本人とも替わってお話し頂いている。文章が書ける方は、家族や友人に手紙を送るような支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて環境を整え、快適な共有空間となるよう努め、温度等への配慮も行なっている。	各ユニットはそれぞれ間取りが異なるが、木の質感や和の雰囲気作り、歴史を重ねた安心感等が伝わる。リビング中央は畳敷きになっており、以前は掘り炬燵が設けられていた名残が残る。皆で過ごせる場所や、一人で過ごせる居場所等、くつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身で自由に過ごされている。併設の事業所にも自由に行き来されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力でなじみの家具や小物、写真等を飾り、本人が安心して過ごせるよう工夫をしている。	ユニットにより異なるが、居室入口が板張りとなり、そこから畳敷きとなっていたり、掃出しの窓やトイレ付の部屋、個人のために改造された部屋等、様々な設定がある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ホールの壁には手摺を設置、また、入居中の利用者が安全に出来るだけ自立した生活が送れるように、居室内に手摺を設置する事もある。		